

## エネルギー安全保障をめぐる合意形成

### (3) 福島事故後の原子力政策における合意形成過程の考察

Public Policies Building of Energy Security

(3) Study on a consensus building process of the Atomic Energy Policy post the Fukushima accident

\*小伊藤 優子<sup>1</sup>, 山口 彰<sup>1</sup>, 張 承賢<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東京大学

本研究では、エネルギー安全保障をめぐる原子力政策に関し、東京電力福島第一原子力発電所事故（以下、福島事故と略記）以降の国民的合意形成過程を基地政策の場合との比較を通して合意形成要因を特定し、評価軸を検討した。

**キーワード**：エネルギー安全保障，原子力政策，高速炉，合意形成，基地政策

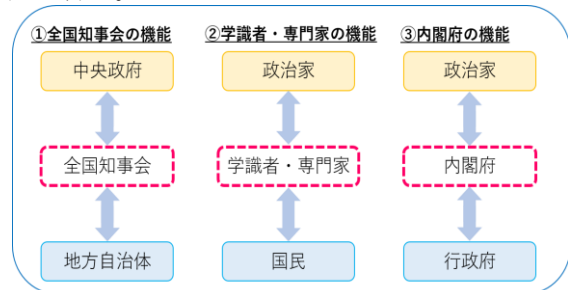
#### 1. 緒言

日本政府は、2016年12月に高速増殖原型炉もんじゅ（以下、「もんじゅ」と略記）の廃止措置を決定する一方で、高速炉サイクルの実用化に向けた研究開発を推進する方針を明示した。「もんじゅ」については、前報にてナトリウム漏洩事故後の国民的議論の枠組みにおいて核燃料サイクルの全体的な議論から高速炉サイクルの議論が独立したために国民の理解が十分に浸透しなかった可能性を指摘した[1]。本研究では、基地政策との比較を通して、原子力政策に関する合意形成要因を特定し評価軸を検討するとともに、高速炉サイクル実用化に向けた政策の合意形成過程に関する知見を得る。

#### 2. 安全保障政策に関する国民的合意の形成

##### 2-1. 3つの合意形成要因

多様な行為主体の活動に着目して原子力政策と基地政策の政策合意に至る政治過程を比較した結果、政策決定構造や行為主体間の相互作用等において基本的な相似性があることを示した[2]。図に示すように、国民的合意を形成する要因として①全国知事会の機能②学識者・専門家の機能③内閣府の機能が重要であると考えられる。



【図】安全保障政策に関する合意形成要因

##### 2-2. 全国知事会の機能

社会科学の手法を用いて基地政策に関する合意形成過程を考察すると、①全国知事会の機能に特徴がある[2]。基地政策に関して全国知事会は、立地県と非立地県間の共通の利益（国民的ベネフィット）に伴うリスクとコストの認識共有及び中央政府と地方自治体間における国家的要請に伴うリスクとコストのバランスを調整・監督する場として機能した。原子力政策は、立地県が各々異なる性質の施設を有するため、共通の利益の認識に差異が生じやすいことを指摘できる。そのため基地政策の場合と同様に、立地県と非立地県間の共通の利益に伴うリスクとコストの認識を共有し、中央政府と地方自治体間において国家的要請に伴うリスクとコストのバランスを調整・監督する全国知事会の機能が重要であると考えられる。

##### 2-3. 高速炉研究開発への知見

高速炉の研究開発に関しては、限られた立地県が国家的要請を受け、それに伴う利益と共にリスクとコストを受容してきた。しかし、福島第一原子力発電所をめぐるシビアアクシデントのインパクトは、従来以上に政策判断に伴う政治的リスクを高めることになった。今後の政策推進に際しては国家的要請に伴う政治的リスクを低減させる取り組みが重要になるが、限られた立地県のみでの努力に頼ることは、国策の目的に鑑みて過重負担であり、立地県の行政を停滞させる可能性があると考えられる。

##### 2-4. 高速炉サイクル実用化に向けた国民的合意の形成

全国知事会が、高速炉サイクルに関する立地県と非立地県間の共通の利益とリスクそしてコストの認識共有と共に、中央政府と地方自治体間の国家的要請に伴うリスクとコストのバランスを調整・監督する役割を果たすことは、地域性をこえた国民の理解醸成を促し、その結果として限られた立地県が過重に負担してきた政治的リスクの低減が期待できる。また、原子力利用について電力消費地と生産地という垣根をこえたボトムアップ的な国民的合意の形成を可能にし、社会的議論の成熟に貢献し得ると考えられる。

#### 3. 結論

緒言を受けて、原子力政策に関する合意形成要因は行為主体間の相関関係であると特定した。評価軸は、原子力関連施設の政策目的や事業者が異なるため原子力利用に関する認識に差異が生じやすいことに鑑みて、国家的要請に伴う共通の利益とリスクそしてコストのバランスと考えられる。また高速炉サイクル実用化に向けた政策の合意形成過程においては、全国知事会の機能が重要であると考えられる。

#### 参考文献

[1]小伊藤優子, 日本原子力学会 2017年度春の大会, 1E07. [2]小伊藤優子, 日本原子力学会 2016年度秋の大会, 2M12.

\*Yuko Koito<sup>1</sup>, Akira Yamaguchi<sup>1</sup>, Sunghyon Jang<sup>1</sup>.

<sup>1</sup>Tokyo Univ.